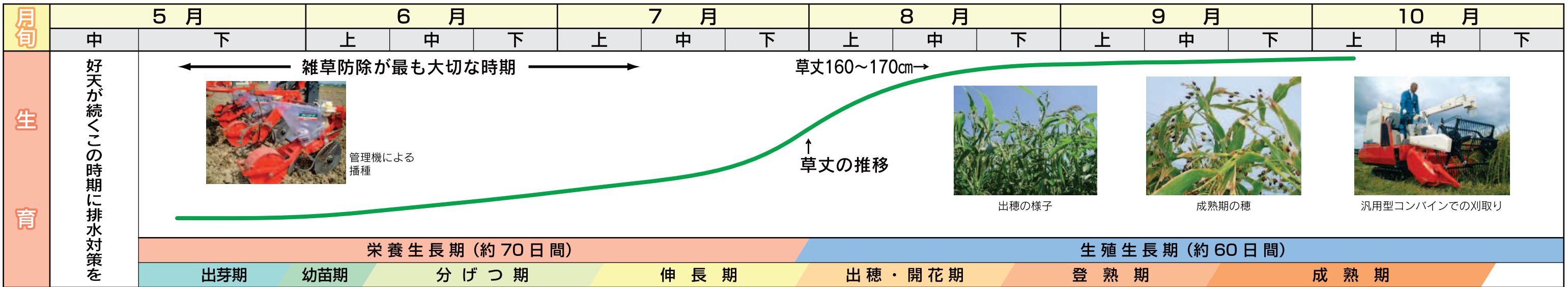


200kgどり ハトムギ 栽培こよみ

- 【栽培のポイント】**
- ①適期播種と初期生育の確保
 - ②的確な中耕培土の実施と雑草防除
 - ③適切な病害虫防除
 - ④適期収穫



作業のポイント

- ①播種前のほ場の準備
発芽率・除草効果を高めるため、播種前に額縁排水溝を必ず設置
- ②土づくり
苦土石灰や堆肥等で土づくりを行う
- ③種子消毒の実施
種子消毒（葉枯病と黒穂病の防除）
ベンレート水和剤20（200倍液）
浸種：10℃以上の水温で72時間浸種
薬剤75g/種子3kg
水15L/種子3kg
- ④耕起・播種・除草剤の散布
- ⑤中耕除草（平床播種の場合）
播種後15～20日に実施
- ⑥1回目培土
播種後30日頃（草丈50～60cm）に、第1葉に土がかかる程度に作業を行う。
※分施肥の場合は [LPコート100] 40kg/10a を株元に施用する。
- ⑦2回目培土
播種後50日頃（草丈80～90cm）にできるだけ高く実施
- ⑧畦間かん水（7/末～9/中）
晴天が続き、葉先がよれてきたら、すぐにかん水を行う。
- ⑨収穫
【刈取適期】
出穂後約60日頃
子実の70～80%（上位3節が90%）が茶褐色となった頃
- ⑩秋起こし
害虫の越冬場所とならないよう刈株を処理

雑草・病害虫の基本防除

<p>除草剤（耕起前または播種前まで）</p> <p>ラウンドアップマックスロード 薬量200～500ml/10a 水50～100L/10a 使用回数：2回以内</p> <p>除草剤（播種後～出芽前）</p> <p>ラッソー乳剤 薬量500ml/10a 水100L/10a 使用回数：1回</p> <p>除草剤（播種後～出芽前）</p> <p>サターンバロ乳剤 + ゲザプリムフロアブル 薬量500ml/10a 薬量200ml/10a 水100L/10a 水100L/10a 使用回数：1回 使用回数：1回</p>	<p>イネヨトウ等防除（6月上～中旬）</p> <p>パダン粒剤4 薬量 4kg/10a 使用回数：2回以内 （ネキリムシにも効果）</p> <p>除草剤散布（生育期、収穫45日前まで）</p> <p>バサグラン液剤 薬量150ml/10a 水100L/10a、使用回数：2回以内</p>	<p>出穂前除草剤（収穫60日前まで）</p> <p>ブリグロックスL 薬量1L/10a 水150L/10a 使用回数：2回</p> <p>葉枯病防除（6月末～7月初旬）</p> <p>ロブラール水和剤 薬量150g/10a 水150L/10a、使用回数：3回以内 ※展着剤を加用すること</p>	<p>アワノメイガ防除（6月末～7月初旬）</p> <p>サブリナフロアブル 薬量150ml/10a 水150L/10a、使用回数：—</p> <p>アワノメイガ防除（7月下旬）</p> <p>トアロー水和剤CT 薬量150g/10a 水150L/10a 使用回数：— 又は パダン粒剤4 薬量4kg/10a</p>	<p>雑草の抜き取り（収穫前）</p> <p>難防除雑草の「イヌホオズキ」や「アサガオ類」を抜き取る</p> <p>イヌホオズキ アサガオ類</p>
--	--	--	---	--

←【葉枯病】
下位葉から発生し、葉枯れは上位葉まで拡大。子実是不稔粒になる。

←【アワノメイガの食害】
7月中下旬頃、幼虫が茎に侵入し、枯死する。食入後の薬剤散布は効果が劣る。

※ラッソー乳剤は、砂質土壌や有機物の少ない土壌で使用の場合は営農指導員にご相談下さい。また、激しい降雨が予想される場合は使用しない。
※サブリナフロアブルは、使用前によく振って使用して下さい。

肥培管理

1. 『分施』の場合(10a当り)

区分	土づくり資材		基肥(播種同時施肥)	追肥(播種後30日)
名称	*苦土石灰	堆肥	基肥555	LPコート100
施用量	100kg	1～2t	20kg	40kg
成分			N 15%、P 15%、K 15%	N 42%

2. 『ハトムギ専用基肥一発肥料』の場合(10a当り)

区分	土づくり資材		播種同時施肥
名称	*苦土石灰	堆肥	新はとむぎ一発
施用量	100kg	1～2t	50kg
成分			N 36%、P 4%、K 5%

※ pHが6.5を超える圃場では苦土石灰の散布は行わない!